

2018年度事業報告

(一社) 若草プロジェクト

1 概要

若草プロジェクトは、2018年度に実質的に発足3年目となり、継続して実施している事業に加えて、若草ハウスの開設、若草メディカルサポート基金の設立などを新たに進めた。

「つなぐ」「ひろめる」「まなぶ」の3つの柱について概要をみると、「つなぐ」については、引き続きLINEによる相談活動を(NPO) bondプロジェクトに委託して行うとともに、シェルター、ステップハウス、シェアハウスの機能を併せ持つ「若草ハウス」を都内に建設し、運用を開始した。また、前年度に締結した(株)ファーストリテイリングとの協定に基づき、全国のシェルターや自立援助ホーム等へのユニクロの肌着の寄付、Theory主催のファッションイベントへの招待等を実施するとともに、全国の施設に医療支援を行う若草メディカルサポート基金を企業からの寄付を原資に創設した。

「ひろめる」については10月に設立3周年シンポジウムを東京で開催したほか、代表呼び掛け人を中心にマスコミ等に対してさまざまな発信を行った。

「まなぶ」については、連続研修会を2回開催した。

運営面では、若草ハウスなどの実際の支援に踏み込んだ事業を実施していく上で、資金面の脆弱性や経理・労務等の管理体制の不安定性の解消が今後の課題として残されており、今後は、こうした課題を解消しつつ、生きづらさを抱えた若年女性たちの問題に対し、現行の取り組みを継続しつつ、新しい取り組みにも目を向けていきたい。

2 事業の実施状況

① 「つなぐ事業」

ア.LINEによる相談活動の実施 (NPO 法人 bond プロジェクトに委託)

相談の仕組み

毎週 月及び土 13~19時、水 17~19時に2名体制で実施
必要に応じてメール相談、同行支援等につなげていく

相談実績

- ・ 対応件数：2,171件
- ・ メール相談件数：104件
- ・ 電話相談件数：9件
- ・ 出張面談件数：8件
- ・ 同行支援件数：4件

- ・保護件数：3件（若草ハウス）

イ.若草ハウスの設置・運営

昨年度から建設を進めてきた若草ハウスは、10月に完成し、11月から運営を開始した。

ウ.企業との連携

（株）ファーストリテイリングとの連携については、昨年度締結した合意書に基づき、以下の2事業を開始した。

(ア)衣料支援（8月）

行き場のない少女たちに「居場所」を提供している、子どもシェルター、婦人保護施設、DVシェルター、自立援助ホーム、更生保護施設等の123施設に対し、ユニクロの肌着（トップス、ショーツ、ブラトップ・ワイヤレスブラ等）を送付した。

具体的には、若草プロジェクトが各施設の希望、送付先等を取りまとめたリストを作成し、ファーストリテイリングがリストに基づき各施設に送付した。

今後は毎年2回、支援を行うこととしている。

(イ)ファッションイベント(12月)

リンク・セオリー・ジャパン（ファーストリテイリングのグループ企業、以下「セオリー」）との連携により、少女たちの社会復帰を後押しするためのファッションイベントを開催した。

イベントでは、セオリーの接客担当者がボランティアで参加して一人一人に似合う服をコーディネートした後、専門家によるメイクアップ、ポートレイトの撮影を行い、若草プロジェクトはイベントの告知及び参加者の募集、名簿の作成及び当日のポートレイトの撮影を担当した。

本年度は就職活動をしている（就職済を含む）少女たちを対象とし、自立援助ホームを利用している14人が参加した。

エ.若草メディカルサポート基金

虐待の後遺症や性暴力被害により医療・薬品を必要とする若年女性に対し、支援機関が医薬品の購入、医療費の立て替えなどを行うことを支援する仕組みとして、企業からの寄付等を原資として若草メディカルサポート基金を立ち上げた。

2018年度には2社から計200万円の寄付をいただいております、2019年度中に具体的な支援を開始する予定である。

② 「ひろめる」事業

ア.設立3周年記念シンポジウム

スマホやインターネットを通じて性犯罪、ポルノ、DV、薬依存などの罠に絡め取られている若い女性や少女たちの心のSOSをキャッチし、支援することをテーマとして、設立3周年シンポジウムを開催した。

開催月日 2018年10月13日

開催場所 青山学院大学 本多記念国際会議場

参加者 約300名

内容

若草プロジェクト事業報告

村木厚子代表呼び掛け人、牧田史 (一社) 若草プロジェクト理事

寂庵からの報告ー若草と私ー 瀬尾まなほ 瀬戸内寂聴秘書

「座間事件」後の若年女性や少女たちへの支援の状況

・厚生労働省の取り組みについて 宮原真太郎 厚生労働省参事官

・SNSが開けた若年女性のパンドラの箱 熊坂義裕(一社)社会的包摂サポートセンター代表理事

基調講演 少女たちの現在あるいは居場所ー『路上のX』から

桐野夏生 作家

対談 桐野氏、大谷恭子(一社)若草プロジェクト代表理事

イ.広報活動

(ア)新聞、雑誌等への働きかけ

シンポジウム、研修会等のイベントの記事の新聞・雑誌への掲載
理事、代表呼びかけ人の講演、エッセイ、インタビュー等

(イ)リーフレット等による広報

リーフレットの作成
ホームページの運営

ウ.ツイッター等の活用

若草プロジェクトの活動について、ツイッターやフェイスブックを活用して拡散を図った。

③「まなぶ」事業

ア.「女の子」たちの今を知り「信頼される大人になる」ための連続講座

第7回(6月2日 寂庵 参加者約50人)

少女たちの居場所に求められるもの

講師:薬師寺順子 大阪府岸和田子ども家庭センター所長

青野雅世 子どもシェルターモモ施設責任者

第8回(3月16日 寂庵 参加者約50人)

少女たちの心理について

講師：周藤由美子 フェミニストカウンセラー
工藤宏子 臨床心理士
齋藤梓 目白大学人間学部心理カウンセラー

3 総会・理事会の開催状況

機関

代表理事 大谷 恭子
理事 村木 太郎
理事 遠藤 智子
理事 瀬尾 まなほ
理事 牧田 史

総会 平成 30 年 5 月 14 日

2017 年度事業報告・会計報告

2018 年度事業計画・予算

会員及び賛助会員の会費について

理事会

第 1 回 平成 30 年 4 月 19 日
第 2 回 平成 30 年 5 月 14 日
第 3 回 平成 30 年 6 月 28 日
第 4 回 平成 30 年 7 月 24 日
第 5 回 平成 30 年 9 月 14 日
第 6 回 平成 30 年 10 月 2 日
第 7 回 平成 30 年 11 月 3 日
第 8 回 平成 31 年 1 月 10 日
第 9 回 平成 31 年 3 月 7 日

臨時理事会

第 1 回 平成 30 年 7 月 30 日

4 会員、賛助会員の状況

正会員 5 名（代表理事・理事から成る）
賛助会員 150 名
合計 155 名